

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年8月28日(月) NO12 文責 木下^{きした} 文秋^{ふみあき}

甲子園の脱「丸刈り」に思う

今年の甲子園はベスト8に花巻東、土浦日大、慶応の3校が長髪で話題となりました。丸刈りが当たり前の高校野球でふさふさした髪の毛の選手がプレーしている場面に「坊主にして出直してこい」というヤジも飛んだそうです。慶応の森林監督は「高校野球の嫌いなところ」とつぶやいて雑誌に取り上げられています。丸刈り以外に、なぜ高校野球だけ国営放送NHKで全試合全国配信されるのか、過酷な炎天下で毎日プレーが続けられるのか、サイン盗みが横行しているがバレなければいいのか…など問題提起されています。確かに高校野球は多くの高校部活動の中でも、いわゆる国民的行事になっており多くのスーパースターが輩出されました。どうして野球だけなのかと思う人はたくさんいると思われます。花巻東高校の佐々木監督は「研修で渡米して外から日本を見ると伝統と習慣でやっていることに気づいた」と話されています。この「伝統と習慣」という言葉がとても引っ掛かります。高校野球で言えば、丸刈りであることや学校を上げて甲子園で応援をすることが当たり前であるとか、私たちの周りでは特に気にされることなく伝統と習慣で歴史を刻んでいることがある気がします。夏の暑さは私が中学生の頃とまるで別物になりました。地球温暖化の影響で子どもが弱体化したわけではありません。しかし、危険な炎天下の試合を全国放送しています。森林監督は、坊主頭になっていること、それ自体は大きな問題ではなく、より真剣に考えなければならないのは、「高校野球と言えばやはり坊主頭が当たり前。それでいいじゃないか」という旧態依然とした習わしによる思考停止。そちらのほうが罪深いと書かれています。昔あるアスリートが「0.1秒速くなるために必死になっているのに、ジュニアスポーツ界では、今でも罰で走らされるという昔ながらの体質に相当な抵抗がある」と言われていました。今年の夏も多くの中高生アスリートが活躍し成長しました。本校からも九州大会や全国大会に参加した生徒がいます。スポーツマンシップを通して正義や礼儀などスポーツの世界から学ぶことはたくさんあります。私たち大人も現状をしっかりと見つめ、これまでの「伝統と習慣」にこだわらず、そして、大事にすべきはしっかり守りながら、この夏に大きく成長した子どもたちを頼もしく見届けたいと思います。行事でんこ盛りの2学期が始まります。頑張りましょう！